

直接支払交付金事業活用事例

新潟県十日町市松之山 黒倉集落

目次

1. 地域紹介

- ・ 黒倉集落について

2. 直接支払交付金事業を活用した取り組みについて

- ・ 集落機能の維持
- ・ 中山間地農業の維持と発展に向けて
- ・ 移住・関係人口の促進

地域紹介

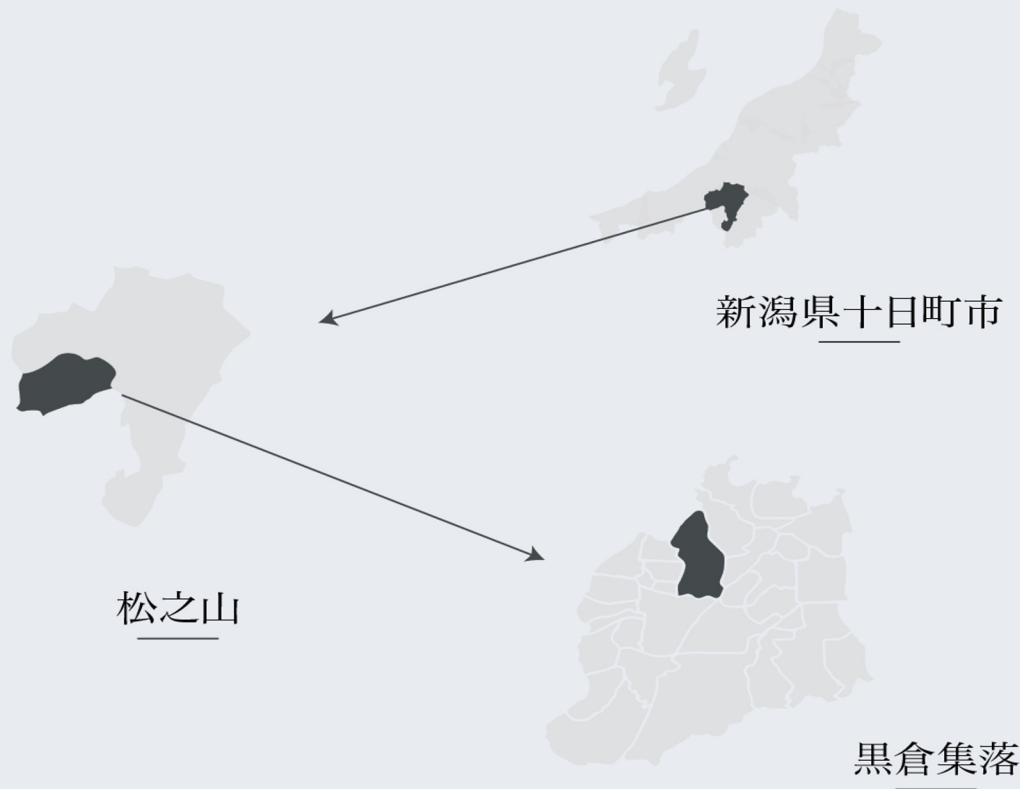
黒倉集落について

黒倉集落は旧松之山町、現十日町市の集落の一つ。

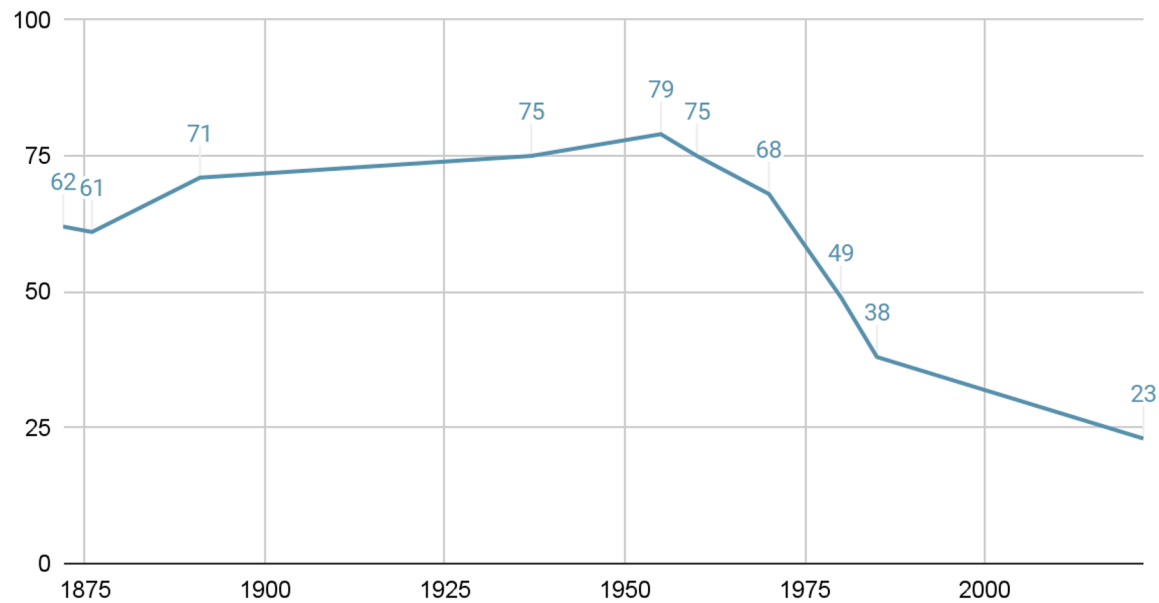
現在23世帯（2022年時点）の住民が暮らす。

全23世帯中6世帯が移住者。
様々なバックグラウンドを持つ。

- JICA（青年海外協力隊）経験者2名
- ハーブ農家1名
- 元地域おこし協力隊2名
（内1名は黒倉で新規就農）
- 現地域おこし協力隊1名
- 無農薬栽培水稻農家1名



黒倉集落の戸数推移



年	戸数
1872	62
1876	61
1891	71
1937	75
1955	79
1960	75
1970	68
1980	49
1985	38
2022	23

参照：松之山町史

直接支払交付金事業を活用した
取り組みについて

集落機能の維持①

『集落内除雪組織の編成』

『黒倉助っ人隊』という
除雪組織を集落内で編成。
集落内道路から各家までの
道付け作業をが主な業務内容。

集落の相互扶助によって
高齢者世帯への除雪援助
などを行っている。

交付金活用

除雪に使用する投雪機やブルドーザーなどの整備修理費用
除雪に関わる人員への労賃として活用



集落機能の維持②

『収穫祭をコミュニケーションの場に』

毎年11月に開催される
収穫祭を拡大し

『新そば祭り』として実施。

集落若手が蕎麦を栽培・収穫・製粉・
手打ちまで一貫して作業を行い、お客
様に生蕎麦を提供。

集落内各戸から特産物を持ち込んで
もらい、『黒倉勝手市』として販売。

世代を超えたコミュニケーションの場
としても機能した。



交付金活用

蕎麦生産に関わる機械（製粉機や播種機など）や新そば祭りの
販促物購入など、多岐に渡る。



中山間地農業の維持と発展に向けて① 『黒倉生産組合』

集落内農家が生産組合を共同で運営。

苗作りと籾の乾燥調整作業を共同で行えるよう
設備を集落内に導入。

また、トラクターやコンバインなどの農業機械
も共同使用できるよう管理を行っている。

交付金活用

共同苗代の整備、共同農業機械の購入補助など
中山間地農業の維持に貢献



中山間地農業の維持と発展に向けて② 『圃場環境改善工事』

集落内の農地で、畔の強化や明渠作成などの要望を各戸から集約。重機をレンタルして工事を実施。これにより田んぼの漏水軽減、水はけ能力改善による生産性向上などに寄与している。

交付金活用

重機のレンタル費用や燃料代、個人負担割合の軽減等



移住・関係人口促進①

『地域おこし協力隊制度の活用』

黒倉集落では延べ2名の地域おこし協力隊を採用している。

集落機能の維持や農業支援など多岐に渡る支援を業務として実施。

1名は新規就農して黒倉集落に定住8年目。もう1名は現職として集落の機能維持に尽力している。

交付金活用

地域おこし協力隊が居住する住居の改修費用や、協力隊自身のスキルアップ（例：大型特殊免許取得費用等）に活用。



移住・関係人口促進②

『大地の芸術祭作品の誘致』

2022年、黒倉集落としては2回目の大地の芸術祭作品を誘致。集落内の空き家を活用した『パレス黒倉』という作品を設置。

これにより、開催期間中（7月30日～11月13日）で延べ4300名の来場者を記録。受付は集落一丸となって当番を行い、県内外から来る方々と積極的に交流。また今後も作品を制作した作家さんや、地元からは出たが住んでいた愛着のある家を快く作品に提供していただいた方との関係人口を構築することができた。

交付金活用

芸術作品を観覧するための駐車場整備や景観向上のための花壇づくり、観覧者が不便なく観覧できるよう、ぬかるみ防止台設置費用など。



移住・関係人口促進③

『糸魚川高倉集落との交流』

市政・県政との連携

振興局からの情報提供で、**2022年8月**に糸魚川市高倉集落から約**20名**が黒倉集落に来訪。

地域おこし協力隊制度の活用事例や、地域での農業の取り組みの歴史などを情報交換することができた。

またこの出来事を契機に高倉集落の収穫祭にも参加し、今後の情報共有を約束することができた。

